

シリアルアナライザー
SA-100
取扱説明書

■ ご使用前に必ずお読みください ■

この度はシリアルアナライザーをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。ご使用に関しては、本書の内容をご理解の上、正しくご使用くださるよう、お願い申し上げます。

■ 安全上のご注意 ■

アナライザーを安全に使用していただくために「警告」の記載事項は必ずお守りください。

お取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うかまたは物的損害が発生する危険な状態が生じることがあります。



警告

- ・アナライザーには RS232C および RS422/485 以外の信号を接続しないでください。感電、発火、機器を破損する恐れがあります。
- ・アナライザーに水や液体等がかからないようにして下さい。感電、火災、機器が破損する恐れがあります。
- ・アナライザーの配線は必ず、電源を切った状態で行ってください。感電、機器が破損する恐れがあります。
- ・液晶パネルの液体（液晶）は、有害物質です。液晶パネルが損傷した場合、流出した液体に触れないでください。皮膚や衣服についた場合は、石鹸などで洗い流してください。
- ・指定電池以外は使用しないでください。破裂、発火、機器を破損する恐れがあります。
- ・電池の変形、液漏れ、その他の異常に気がついた際は使用しないでください。破裂、発火、機器を破損する恐れがあります。
- ・電池は正しい方向に入れてください。破裂、発火、機器を破損する恐れがあります。
- ・アナライザーを分解しないでください。感電、発火、機器を破損することがあります。
- ・ACアダプタは付属品以外は使用しないでください。破裂、発火、機器を破損する恐れがあります。

- ・原子力、医療、鉄道、航空、車両、燃焼、娯楽機械、安全機械など人命や財産に影響が予測されるなど、安全性が要求される用途には使用しないでください。

ご注意

1. 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは固くお断りします。
2. 本書の内容に関して、将来予告なしに変更することがあります。
3. Windows、エクセルは、米国マイクロソフト社の米国およびその他の国における登録商標です。
4. その他の社名および製品名は各社の商標または登録商標です。
5. 本書の内容については万全を期して作成しましたが、万一ご不審な点がありましたら、当社までご連絡ください。

目次

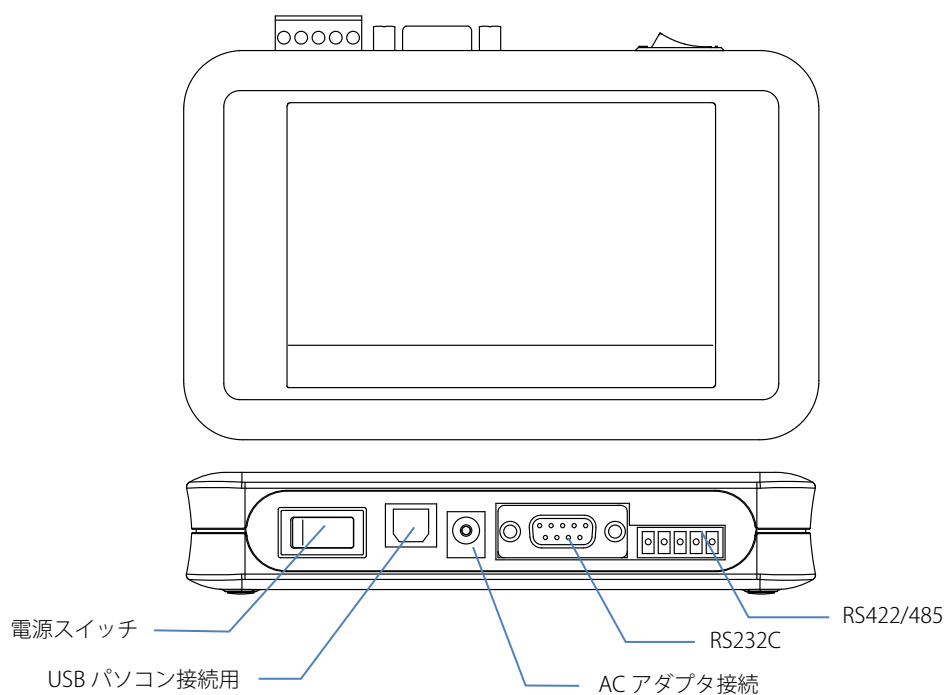
1. 取り扱い上のご注意	1
2. 各部の名称	1
2-1. 外形	1
2-2. 画面	2
3. 基本操作	4
3-1. モニタ操作	4
3-1-1. 配線	4
3-1-2. モニタ設定	4
3-1-3. 接続の確認	5
3-1-4. モニタ開始	5
3-1-5. モニタ停止	5
3-2. シミュレーション操作	6
3-2-1. 配線	6
3-2-2. シミュレーション設定	6
3-2-3. 接続の確認	7
3-2-4. シミュレーション開始	7
3-2-5. シミュレーション停止	7
4. アナライザー操作	8
4-1. 通信設定	8
4-2. 送信データ登録	8
4-3. 通信解析	9
4-4. 検索	10
4-4-1. 検索条件	10
4-4-2. 検索	11
4-5. 保存読出	11
4-6. トリガー	12
4-6-1. トリガー条件	12
4-6-2. トリガー動作	13
4-6-3. トリガー履歴設定	14
4-6-4. トリガー履歴確認	14
4-7. タイマー	15
4-8. カウンタ	15
4-9. 表示	16
4-9-1. 表示モード	16
4-9-2. アイドル表示・日時表示	16
4-9-3. 制御ライン表示	17
4-9-4. 操作キー	17
4-9-5. 文字サイズ	18
4-9-6. バックライト自動消灯	18
4-10. タッチパネル調整	18
5. 仕様	19
5-1. アナライザー本体	19
5-2. アナライザーコネクタ配列	20
5-3. リバース変換器	20
6. アフターサービスについて	21

1. 取り扱い上のご注意

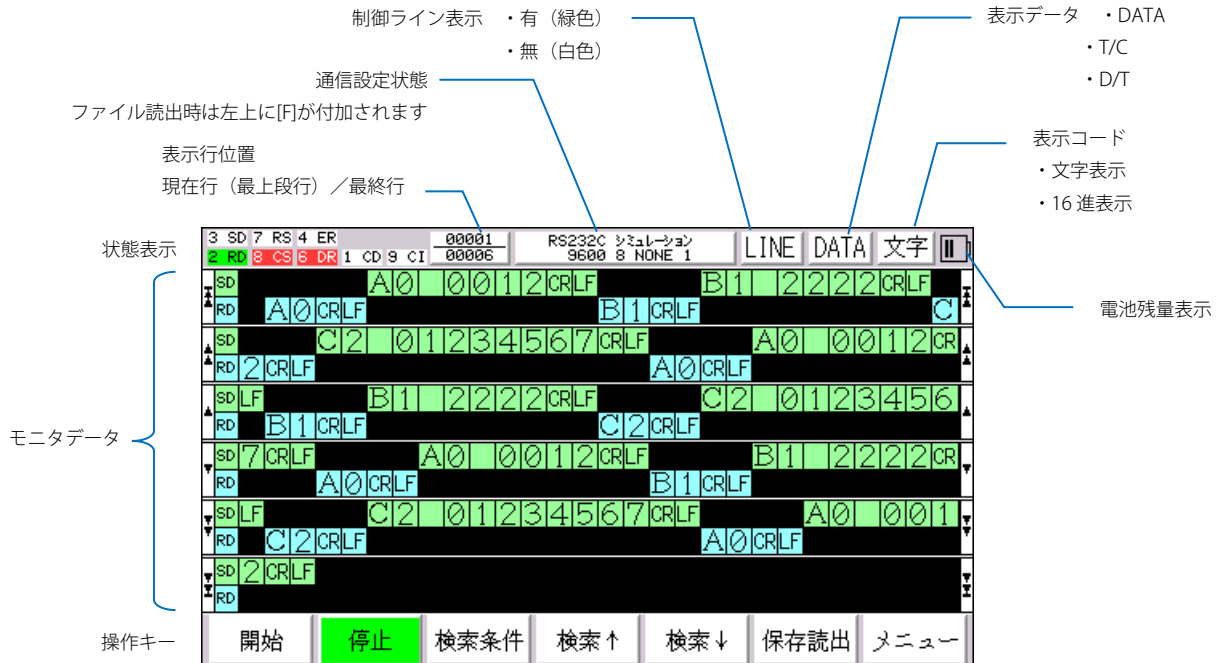
- ・アナライザーは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- ・液晶パネルは、非常に精密度の高い技術で作られていますが、画素欠けや常時点灯する画素がありますので、あらかじめご了承ください。また、有効ドット数の割合は99.99% 以上です。
- ・タッチパネルはボールペンや金属類などの硬い物でパネルをタッチしないでください。また、パネルを強く押したり、こすったりしないでください。また、紫外線（太陽光直接）にあてないでください。

2. 各部の名称

2-1. 外形



2-2. 画面



◎状態表示 各信号の状態を色で識別表示しています。

RS232C		RS422/485	
赤	通信時 (最大+3V 以上)	赤	通信時 (+1間電圧 最小-0.2V 以
緑	未通信時 (最小-3V 以下)	白	上記以外
白	上記以外、未配線時		

◎表示行位置 現在表示している最上段の行位置と最終行を表示しています。タッチにて指定行へ移動することができます。

- ◎制御ライン表示 制御ラインの表示の有無 (制御ライン対応に設定されていないと表示されません)
- ◎表示データ モニタしたデータ、タイマー・カウンタ、エラー・トリガ数等のデータを切替
- ◎表示コード モニタエリアに表示されるデータの「文字」「16進」表示切替
- ◎モニターエリア SD、RD側にて受信したデータが表示されます。

表示はデータ以外にエラーデータも表示します。

- 「PE」：パリティエラー
- 「FE」：フレミングエラー
- 「PF」：パリティエラーとフレミングエラー
- 「BR」：ブレーク
- 「OE」：オーバーランエラー (データの取込みが間に合わなかった場合)

左右に配置されているマークのラインをタッチすると表示位置が移動できます。

- ▲・▼ : データの先頭または最後に移動
- ▲・▼ : 1ページ前または次へ移動
- ▲・▼ : 1行前または次へ移動

◎操作キー アナライザーの操作を行います。

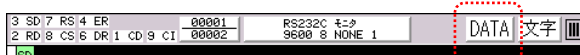
モニターデータに表示される文字サイズは表示設定にて「標準」「小」切替が可能です。

操作キーは表示設定にて「1行」「2行」表示の切り替えが可能です。

画面右上の「DATA」をタッチすると表示データが切り替わります。

- DATA：受信したデータ表示
- T/C：タイマー、カウンタ情報
- D/T：受信文字数、エラー発生数、トリガー数

タイマー、カウンタの設定は「メニュー」項目の「タイマー」「カウンタ」にて行います。



D/Tに表示されている情報は開始時にリセットされます。



3. 基本操作

アナライザーには「モニタ」「シミュレーション」の2つのモードがあります。

「モニタ」：機器間の通信状態をモニタします。本機は受信のみで送信は行いません。

「シミュレーション」：本機から送信することができます。

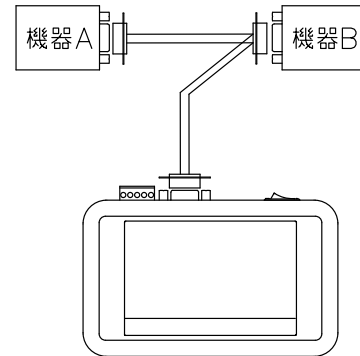
3-1. モニタ操作

3-1-1. 配線

アナライザーにケーブルを接続します。

◎RS232C の場合

コネクタ形状が Dsub9P の場合は付属のケーブルを用いて接続します。他形状の場合は、お客様にてご用意願います。



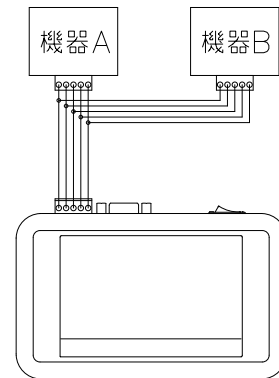
◎RS422/485 の場合

端子台側に接続します。

接続のケーブルは、お客様にてご用意願います。

配線は極性があります。+はプラス側に、-はマイナス側に配線します。

本機		機器 A、B
SD+	←→	RD+ または (SD+)
SD-	←→	RD- または (SD-)
RD+	←→	SD+ または (RD+)
RD-	←→	SD- または (RD-)



SG 信号がある場合は、SG 信号も配線します。

2線式の場合は本機の SD 側または RD 側のいずれかに接続します。両方の送受信データが接続した側のみに表示されますので、「アイドル時間」を表示すると見やすくなります。

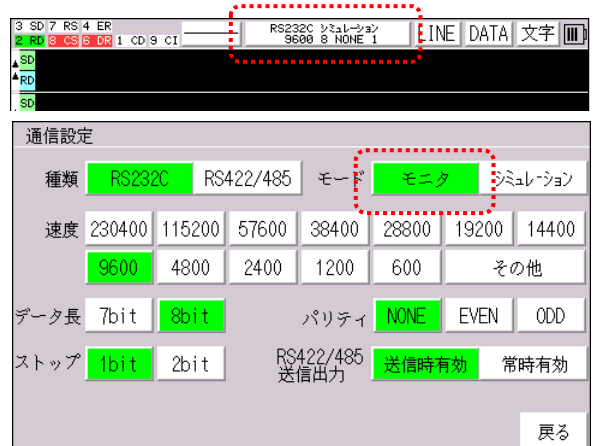
3-1-2. モニタ設定

起動画面の上部の通信条件が表示されている部分、もしくは「メニュー」「通信設定」を選択します。

モードを「モニタ」に設定します。

他の通信条件も設定し、起動画面に戻ります。

通信設定の条件が分からない場合は「通信解析」機能を利用してみてください。



3-1-3. 接続の確認

RS232Cにて接続機器の準備が出来ている場合

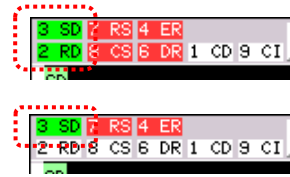
画面左上の「3 SD」「2 RD」表示が緑色に点灯します。

通信している時は、赤色になります。

機器間のモニタをしている状態で、どちらか片方が白色の場合、

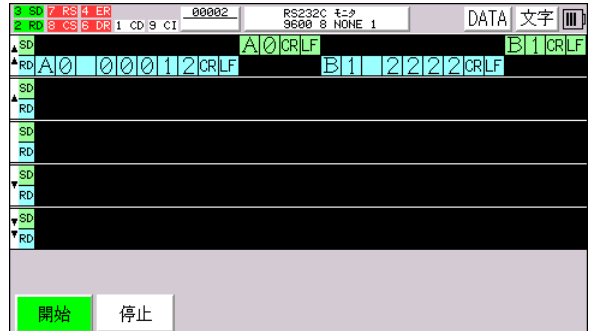
機器の準備ができていなか、配線が間違っている可能性があります。

RS422/485の場合、未通信時は白色で、通信時に赤色になります。緑色にはなりません。



3-1-4. モニタ開始

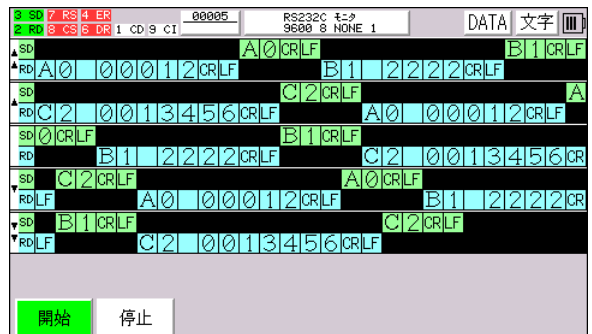
「開始」キーにてモニタを開始します。



3-1-5. モニタ停止

「停止」キーにてモニタを停止し、内容を確認します。

各行をタッチすると、表示行の移動が行えます。



3-2. シミュレーション操作

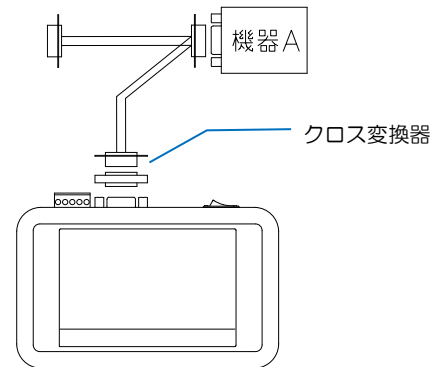
3-2-1. 配線

アナライザーにケーブルを接続します。

◎RS232C の場合

コネクタ形状が Dsub9P の場合は付属のケーブルと付属の「リバース変換器」を用いて接続します。機器によっては変換器を必要としない場合があります。（リバース変換器の内部配線は仕様の項参照）

他形状の場合は、お客様にてご用意願います。



◎RS422/485 の場合

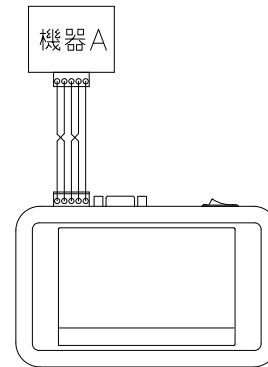
端子台側のコネクタに接続します。

配線は送信と受信をクロスする必要があります。

本機		機器 A
SD+	(送信+)	←--→ RD+
SD-	(送信-)	←--→ RD-
RD+	(受信+)	←--→ SD+
RD-	(受信-)	←--→ SD-

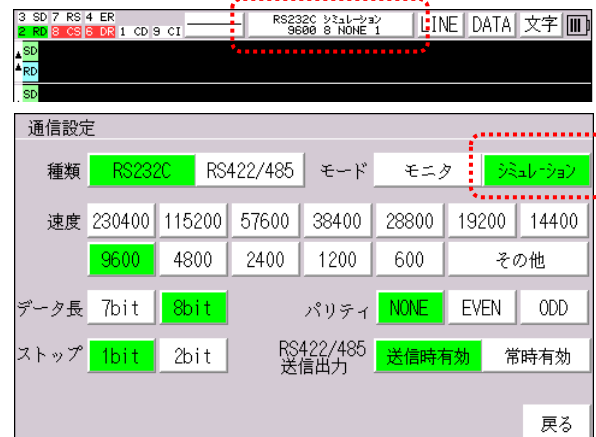
接続のケーブルは、お客様にてご用意願います。

2線式の場合は本機のSD側に接続します。両方の送受信データがSD側のみに表示されますので、「アイドル時間」を表示すると見やすくなります。



3-2-2. シミュレーション設定

起動画面の上部の通信条件が表示されている部分、もしくは「メニュー」「通信設定」を選択します。モードを「シミュレーション」に設定します。他通信条件を設定し、起動画面に戻ります。



3-2-3. 接続の確認

RS232Cにて確認機器の準備が出来ている場合

画面左上の「2RD」が緑色に点灯します。

通信している場合は、赤色になります。「SD」側は白色で、緑または赤色になっている場合、配線が間違っています。クロス配線になっているか確認してください。

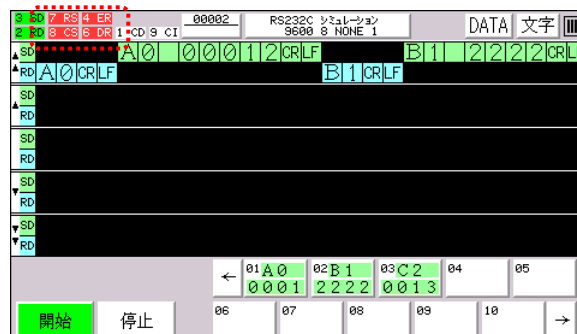


3-2-4. シミュレーション開始

「開始」キーにてシミュレーションを開始します。

右下にある「01」～「10」のキーをタッチすると、送信することができます。「←」「→」キーにて送信データを切り替えることができます。

左上の「7RS」「4ER」の部分タッチすると該当する端子の状態を反転出力します。



3-2-5. シミュレーション停止

「停止」キーにてシミュレーションを停止し、内容を確認します。

表示内容の説明は前項「モニタ」と同様となります。

4. アナライザー操作

4-1. 通信設定

- 種類 「RS232C」「RS422/485」
- モード 「モニタ」：SD, RD 共に受信
「シミュレーション」：SD 送信、RD 受信
- 速度 「その他」 - 「任意」にて任意の速度設定が可能。
任意速度には誤差があります、誤差 2%以内にての使用をお勧めします。
- データ長 「7bit」「8bit」
- パリティ 「NONE」：無し
「EVEN」：偶数
「ODD」：奇数
- ストップ 「1bit」「2bit」
- RS422/485 送信出力
「送信時有効」：出力ラインが送信時のみ ON します
「常時有効」：出力ラインが常時 ON します

通信設定

種類 **RS232C** RS422/485 モード **モニタ** シミュレーション

速度 230400 115200 57600 38400 28800 19200 14400
9600 4800 2400 1200 600 その他

データ長 7bit **8bit** パリティ **NONE** EVEN ODD

ストップ **1bit** 2bit RS422/485 送信出力 **送信時有効** 常時有効

戻る

通信速度設定

460800	230400	153600	115200	76800	57600	51200
38400	31250	28800	19200	14400	9600	4800
2400	1200	900	880	600	440	400
300	220	200	150	110	100	75
50						

62000 ; 任意 実際の通信速度: 61440 誤差: -0.903%

戻る

4-2. 送信データ登録

シミュレーションモードにて使用する送信データの登録は「メニュー」「送信データ」にて行います。登録する項目をタッチし、データを登録します。送信データをコピーする場合は、「コピー」キータッチ後、コピー元をタッチし、「ペースト」キータッチにて、コピー先をタッチします。「▲」「▼」にて別ページにも登録が行えます。

送信データ

01. **A0 0001 CR LF** 06.

02. **B1 1111 CR LF** 07.

03. **C2 0013456 CR** 08.

04. 09.

05. 10.

▲ ▼ コピー ペースト 戻る

4-3. 通信解析

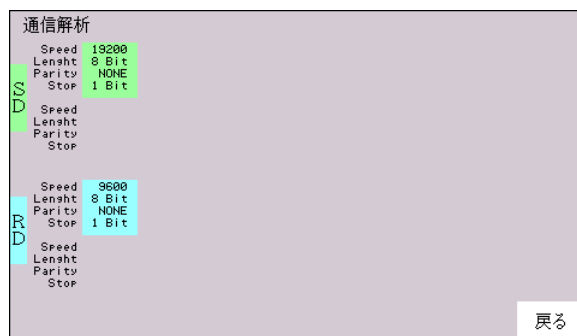
機器の通信設定が不明な場合、「通信解析」キーにて通信設定を自動解析することができます。

解析後、該当する設定が表示されます。SD,RD側個別に解析され、状態によっては、複数の設定が表示されます。表示された項目をタッチすると本内容にて設定が変更されます。

注) 通信速度が 115200bps 以下で、エラーが無い

データの場合に解析ができます。また、通信品質条件によっては解析できない場合があります。

接続機器の準備が出来て、最後に「通信解析」機能を開始してください。先に開始してしまうと、エラー認識する場合があります。



4-4. 検索

通信データを検索する場合は、「検索条件」にて検索文字を登録し、「検索↑」「検索↓」キーにて検索します。
 検索データが存在した場合、赤色にて表示されます。

4-4-1. 検索条件

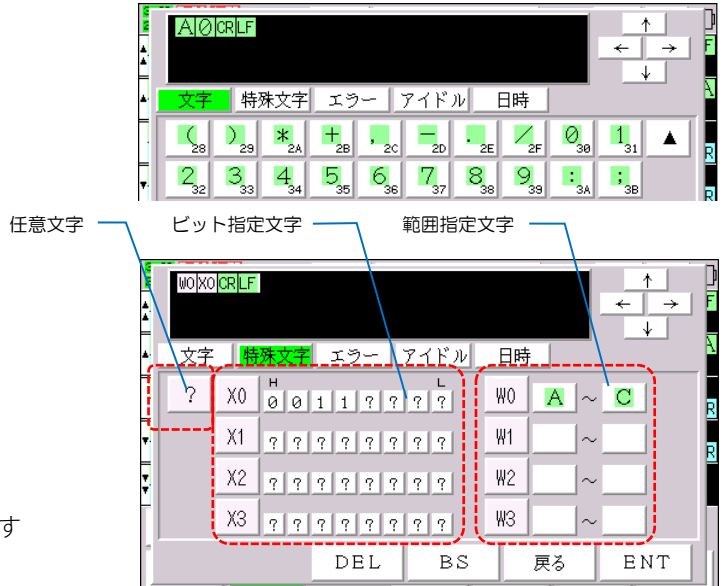
検索条件は以下の5種類から選択できます。

◎文字

[NU](00H)~[FF](FFH)までの通常文字

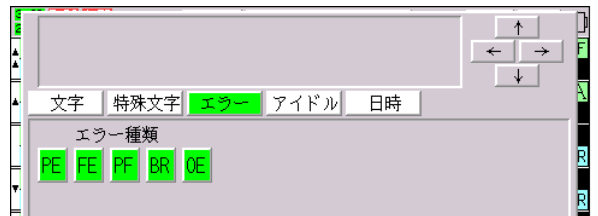
◎特殊文字

- ・任意文字：[?]
 いずれか1文字
- ・ビット指定文字：[X0]~[X3]
 1文字をビット単位で指定します。
 0：OFF
 1：ON
 ?：OFF/ON 関係なし
 [0011????]は 30H~3FH を意味します
- ・範囲指定文字：[W0]~[W3]
 1文字の範囲を指定します。



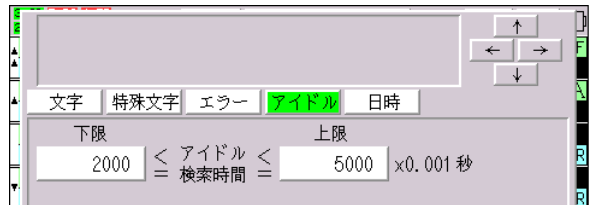
◎エラー

- 以下のエラーが検索できます。
- 「PE」：パリティエラー
 - 「FE」：フレミングエラー
 - 「PF」：パリティエラーとフレミングエラー
 - 「BR」：ブレイク
 - 「OE」：オーバーランエラー
 (データの取込みが間に合わなかった場合)



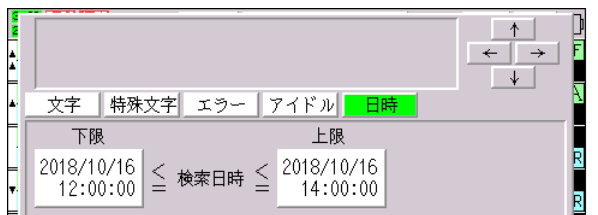
◎アイドル時間

アイドル時間を範囲指定し検索します。
 データにアイドル時間が表示されている必要があります。



◎日時

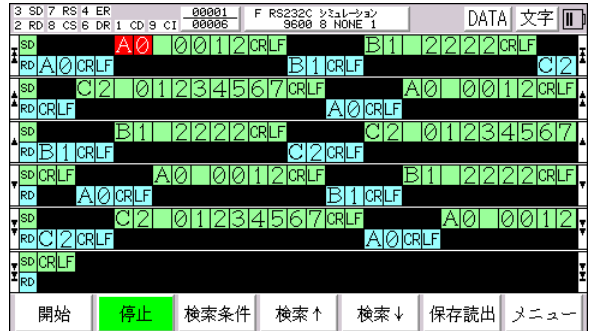
日時を範囲指定し検索します。
 データに日時が表示されている必要があります。



4-4-2. 検索

検索データを登録後「検索↑」「検索↓」キーにて検索します。

検索データが存在した場合、赤色にて表示されます。



4-5. 保存読出

通信結果は「保存読出」にてメモリ内に保存・読出が行えます。

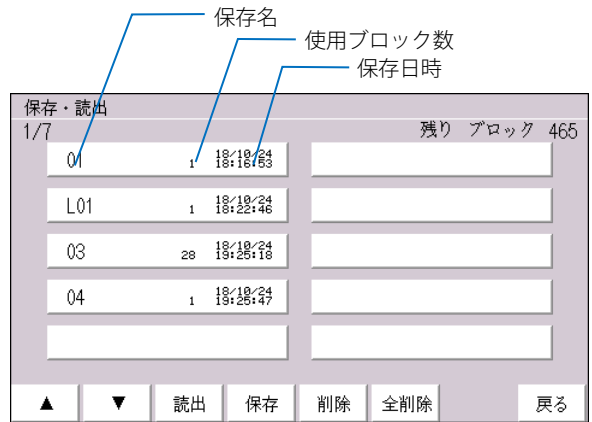
保存は「保存」キーをタッチし、保存名入力にて行います。

読出しは該当項目をタッチ後、「読出」をタッチします。

注) 読出しを行うと、現在の通信設定がそのデータが保存された時の設定に変更されます。

保存できるファイルの最大数はサイズ合計が 496 ブロック以内で、かつファイル数が 70 以内です。

(1 ブロックのデータ量は制御ライン未対応で約 30000 文字
制御ライン対応で 15000 文字に相当します。)

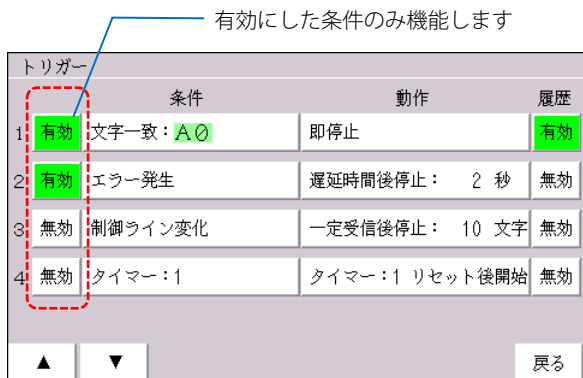


4-6. トリガー

トリガー機能にて設定条件を満たした時に動作を行うことができます。トリガーは「条件」と発生後の「動作」の組み合わせにて設定します。

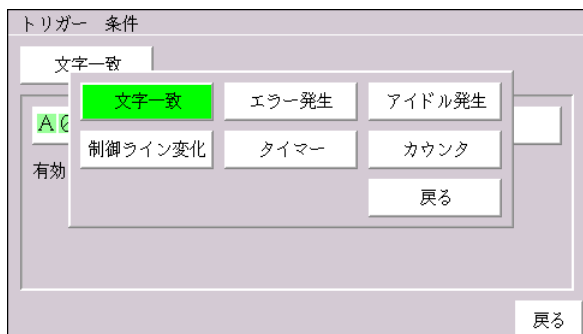
また、履歴機能を有効にすれば、トリガーが発生した日時とタイマーまたはカウンタ値を履歴化できます。

トリガー機能を使用すれば、一定時間間隔での送信、異常発生時刻の収集等が行えるようになります。



4-6-1. トリガー条件

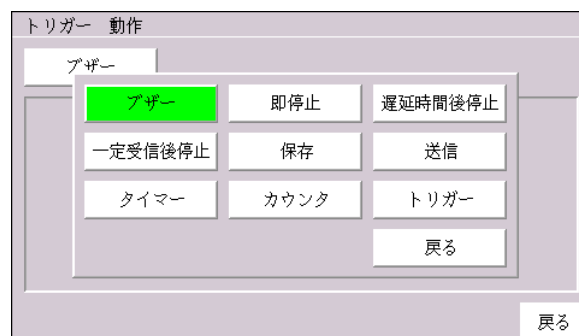
下表の種類の条件を設定します。



条件種類	登録項目	備考
文字一致	<ul style="list-style-type: none"> 文字内容 文字 (通常文字) 特殊文字 (任意、ビット指定、範囲指定) 有効ライン (SD・RD) 	特殊文字の内容に関しては検索条件の項を参照願います。
エラー発生	<ul style="list-style-type: none"> 有効エラー種類 (PE・FE・PF・BR・OE) 有効ライン (SD・RD) 	PE: パリティエラー FE: フレミングエラー PF: パリティエラーとフレミングエラー BR: ブレーク OE: オーバーランエラー (データの取込みが間に合わなかった場合)
アイドル発生	アイドル (無通信時間) の設定	「表示」-「アイドル時間」の設定がされていないと機能しません。
制御ライン変化	各制御ラインのレベルがHまたはLに変換したとき	「表示」-「制御ライン対応」が設定されていないと機能しません。
タイマー	・タイマー番号 (1~4)	タイムアップ
カウンタ	・カウンタ番号 (1~4)	カウントアップ

4-6-2. トリガー動作

下表の種類の動作を設定します。



条件種類	登録項目	備考
ブザー	値設定無し	ブザーを鳴らします
即停止	値設定無し	モニタを即停止します
遅延時間後停止	・遅延時間	設定時間後に自動停止
一定受信後停止	・受信数	設定データを受信後に自動停止
保存	・一側範囲 ・+側範囲	トリガー条件発生文字の前後範囲を指定してデータを保存します。+側のデータ数を設定した場合は本データ数受信した時点で保存されます。アイドル、日時表示のデータも文字数に含まれます。 保存名は「TRIGSV**」(**は数値:自動加算)にて保存されます。 ※1
送信	・送信番号 ・遅延時間	遅延時間後に4-1項にて登録したデータを送信します。 本動作はシミュレーションモード時にのみ機能します
タイマー	・タイマー番号 (1~4) ・タイマー動作 開始 リセット後開始 停止	
カウンタ	・カウンタ番号 (1~4) ・カウンタ動作 加算 リセット	
トリガー	・トリガー番号 (1~8) ・動作 有効 無効	

トリガー機能は処理に時間がかかる場合がありますので、頻繁に発生する条件を設定しないでください。時間がかかる場合、データ取込みを優先し表示が停止します。

「保存」動作は時間がかかるため、一時的に表示が停止します。また、保存中に再度保存動作が発生した場合は2番以降の保存動作は待機します。待機動作は最大3個まで、それ以上はキャンセルされます。

「保存」動作以外で表示が停止した場合は、設定を見直してください。

※1) リモート接続されている保存先はパソコン内の指定フォルダーとなります。

4-6-3. トリガー履歴設定

トリガー画面にて右側の履歴キーにて履歴設定画面に移行します。

履歴が「有効」に設定されたトリガーのみが履歴に保存されます。

拡張保存項目を選択するとトリガー発生時点のタイマー、カウンタ値が履歴と一緒に保存されます。

トリガー履歴

有効

拡張保存項目 拡張保存無し タイマー カウンタ

番号 1

戻る

4-6-4. トリガー履歴確認

履歴は新しいデータが先頭に表示されます。

最大64個の履歴が保存され、最後まで保存されると古いデータから上書きされます。

T: タイマー
C: カウンタ

トリガー履歴	日時	条件	動作	拡張保存
01	10/25 19:42:52	文字一致	ブザー	C2 3
02	10/25 19:42:50	文字一致	ブザー	T1 8.27 秒
03	10/25 19:42:48	文字一致	ブザー	C2 2
04	10/25 19:42:46	文字一致	ブザー	T1 4.66 秒
05	10/25 19:42:45	文字一致	ブザー	C2 1
06	10/25 19:42:43	文字一致	ブザー	T1 1.29 秒

▲ ▼ 全削除 戻る

4-7. タイマー

タイマーはトリガーと組み合わせて、設定した条件の時間を計測したりする場合に使用します。トリガー設定にて条件に設定でき、トリガー動作にて「開始」「リセット後開始」「停止」が行えます。タイマー毎に「設定値」「単位」「開始時自動起動」を設定します。タイマーはモニター開始しても自動的に起動しません。起動するにはトリガー動作にて行うか、「開始時自動起動」を設定する必要があります。

タイマー				
	設定値	現在値	単位	開始時 自動起動
1	60	2	1 秒	<input checked="" type="checkbox"/> 有効
2	1000000	0	0.1 秒	<input type="checkbox"/> 無効
3	1000	0	0.01 秒	<input type="checkbox"/> 無効
4	2000	2019	0.001 秒	<input checked="" type="checkbox"/> 有効

戻る

4-8. カウンタ

カウンタはトリガーと組み合わせて、設定した条件の回数を計測したりする場合に使用します。トリガー設定にて条件に設定でき、トリガー動作にて「加算」「リセット」が行えます。カウンタ毎に「設定値」「開始時リセット」を設定します。

カウンタ				
	設定値	現在値	開始時 リセット	
1	1000	31	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	<input type="checkbox"/> リセット
2	100	0	<input type="checkbox"/> 無効	<input type="checkbox"/> リセット
3	0	0	<input type="checkbox"/> 無効	<input type="checkbox"/> リセット
4	0	0	<input type="checkbox"/> 無効	<input type="checkbox"/> リセット

戻る

4-9. 表示

表示設定にて表示されるモニター情報が設定できます。

4-9-1. 表示モード

表示モードにて「連続」「フレーム」表示が選択できます。

「連続」 : SD、RD を組みとして右端までデータを受信すると次の行へ移動します。

「フレーム」 : フレーム条件ごとに改行表示します。

連続表示

3	SD	7	RS	4	ER	00001	RS232C	シリアルポート	DATA	文字
RD	01	110	.46	A0	CR	LF	IDLE	13:35:29	ID	
RD	01	110	.46	A0	00	112	CR	LF	01	
SD	LE	13:35:31	B1	1	CR	LF	IDLE	13:35:32	IDLE	
RD	01	985	.40	B1	22	22	CR	LF	01	.0
SD	13:35:33	C2	2	CR	LF	IDLE	13:35:34			
RD	25	.41		01	.040	.46	C2	01	1234567	CR
SD	IDLE	13:35:45					IDLE	13:35:46	A0	CR
RD	LF	10.883	.35	A0	00	112	CR	LF	00	.724
SD	IDLE	13:35:47					IDLE	13:35:48	B1	CR
RD	01	170	.25	B1	22	22	CR	LF	00	.965
SD	LE	13:35:49					IDLE	13:35:50	C2	2
RD	01	970	.19	C2	01	1234567	CR	LF	00	.806

フレーム表示

3	SD	7	RS	4	ER	0000001	RS232C	シリアルポート	DATA	文字
SD	01	110	13:35:19.46	A0	CR	LF				
RD	10	.044	13:35:29.42	A0	00	112	CR	LF		
SD	01	985	13:35:31.40	B1	1	CR	LF			
RD	00	.980	13:35:32.39	B1	22	22	CR	LF		
SD	01	.025	13:35:33.41	C2	2	CR	LF			
RD	01	.040	13:35:34.46	C2	01	1234567	CR	LF		
RD	10	.883	13:35:45.35	A0	00	112	CR	LF		
SD	00	.724	13:35:46.07	A0	CR	LF				
RD	01	.170	13:35:47.25	B1	22	22	CR	LF		
SD	00	.965	13:35:48.21	B1	CR	LF				
RD	00	.970	13:35:49.19	C2	01	1234567	CR	LF		
SD	00	.806	13:35:50.99	C2	CR	LF				

フレーム表示は「フレーム詳細」設定にて改行する条件を設定します。

SD 受信中に RD データを受信すると自動的に改行します。

RD 受信中の SD データも同様となります。

アイドル時間表示有効、日時表示有効の場合フレーム検出時間以内のアイドル、日時は表示されません。

表示モード フレーム詳細

フレーム検出時間 x0.001秒

SD 開始コード SD 終了コード

RD 開始コード RD 終了コード

戻る

4-9-2. アイドル表示・日時表示

データ内に「アイドル時間（通信していない時間）」及び「日時」表示できます。

アイドル時間は最少単位を

「0.1 秒」「0.01 秒」「0.001 秒」

から選択します。

表示

表示モード 連続 フレーム フレーム詳細

アイドル表示 (無通信時間) 無し 0.1秒 0.01秒 0.001秒

日時表示 日付 無し 有り

時刻 無し 1秒 0.01秒

戻る

4-9-3. 制御ライン表示

制御ライン表示を選択すると RS、ER 等の制御ライン
 取込みが可能となります。取り込んだデータは
 「線型」「塗込型」の 2 種類の表示方法が選択できます。

表示

制御ライン対応 無し 有り

制御ライン表示方式 線型 塗込型

操作キー 1 段 2 段

文字サイズ 標準 小

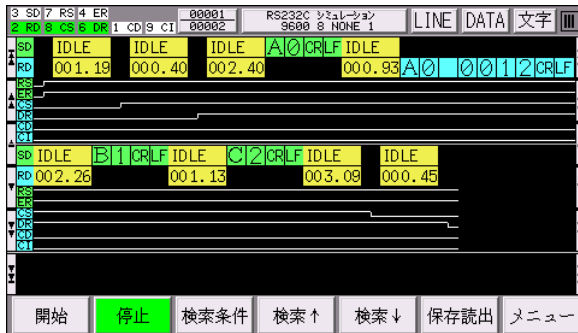
バックライト自動消灯 分

▲ ▼ 戻る

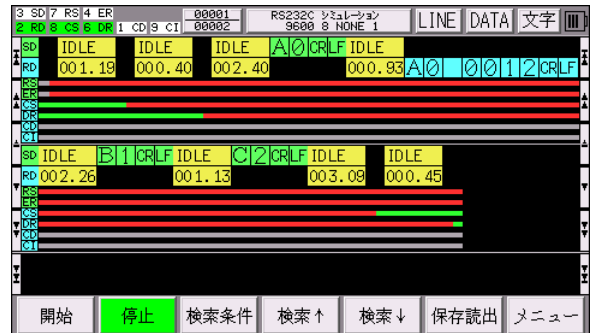
各制御ラインの表示は以下の状態を示しています。

線型		塗込型	
上位置	通信時 (最大 +3 V 以上)	赤	ON 状態 (最大 +3 V 以上)
下位置	上記以外	緑	OFF 状態 (最小 -3 V 以下)
		白	上記以外、未配線時

線型表示

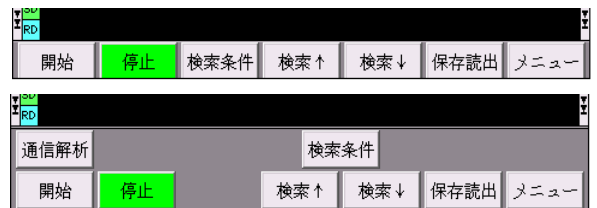


塗込型表示



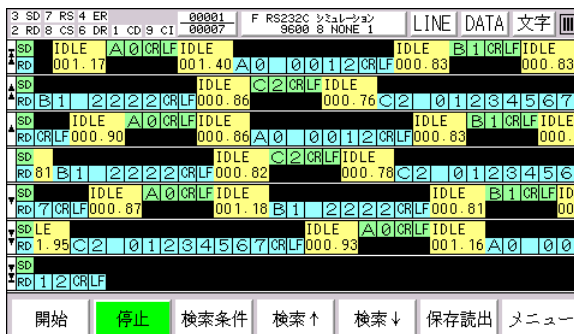
4-9-4. 操作キー

下段の操作キーの段数を「1 段」「2 段」から選択
 できます。



4-9-5. 文字サイズ

データ表示の文字サイズを「標準」「小」から選択
 できます。
 「小」モードの場合、最大 30 行×7 段の表示が可能です。

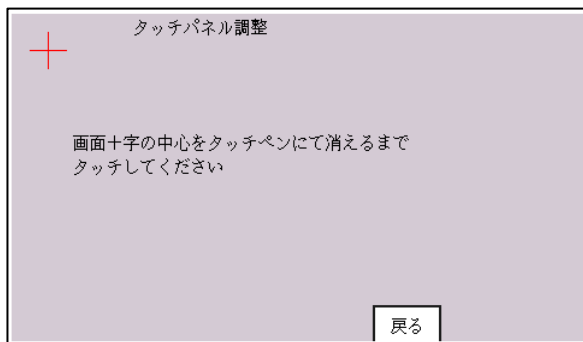


4-9-6. バックライト自動消灯

バックライト自動消灯時間を設定すると、タッチパネル操作しない時間が設定時間経過すると自動的にバックライトが消灯します。

4-10. タッチパネル調整

タッチパネルの位置がずれた場合は
 「メニュー」「その他」「TP調整」にて調整を行って
 ください。必ず、タッチペンにて行ってください、指で
 行うと正確な調整が行えなくなります。



5. 仕様

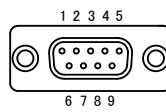
5-1. アナライザー本体

型式	SA-100
通信種類	<ul style="list-style-type: none"> RS232C (Dsub9P コネクタ プラグ仕様) RS422/485 (5P 端子台)
データ形式	JIS8 (ASCII 形式にも対応)
通信速度	460800、230400、153600、115200、76800、57600、51200、38400、31250、28800、19200、14400、9600、4800、2400、1200、900、880、600、440、400、300、220、200、150、110、100、75、50bps、任意設定 (※1)
データ長	7bit、8bit
ストップビット	1bit、2bit
パリティ	NONE(無し)、EVEN(偶数)、ODD(奇数)
プロトコル	ASYNC (非同期)
対応信号	<ul style="list-style-type: none"> RS232C データライン：SD、RD 制御ライン：RS、CS、ER、DR、CD、CI RS422/485 データライン：SD、RD
シミュレーション機能	<ul style="list-style-type: none"> RS232C SD (登録データ送信) RS、ER (手動にてON/OFFのみ) RS422/485 SD (登録データ送信)
補助表示機能	アイドル表示：1ms、10ms、100ms 単位 日時表示：年/月/日 時:分:秒 制御ライン表示
検索機能	通常文字、任意文字、ビット指定文字、範囲指定文字、エラー、アイドル時間、日時指定
トリガー機能	最大8個まで登録可能 トリガー条件：指定文字・エラー発生・アイドル発生・制御ライン変化 トリガー動作：ブザー・即停止・一定時間後停止・一定受信後停止・保存・送信
受信メモリ	900,000 文字分 (日時データを表示した場合4データ、アイドルデータを表示した場合3データ消費します) 制御ライン対応モードにするデータ量は半分となります 受信メモリが一杯になった場合、先頭に戻り古いデータから上書きします
保存メモリ	約 16,000,000 文字分 70 ファイル以内
送信データ登録数	128 文字 × 50 件
表示部	4.3 インチ TFT カラー液晶 (480x272)
タッチパネル	アナログ抵抗式 耐久性 (参考値)：タッチ操作 100 万回以上 こすり操作 10 万回以上 注) こすり操作はしないでください
使用電源	付属 AC アダプタ DC 6V または 単3 アルカリ乾電池 × 4 本
電池動作時間	約 4 時間 (付属 AC アダプタの使用をお勧めします)
内蔵バックアップ電池	データ・カレンダーバックアップ用 (お客様にては交換できません) 設計寿命 5 年以上
外形寸法	約 150mm × 92mm × 28mm

※1) RS232C シミュレーション時の最大保証スピードは 230400bps となります。任意速度は設定によっては誤差が発生します。

5-2. アナライザーコネクタ配列

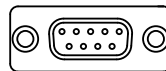
Dsub9pin プラグ



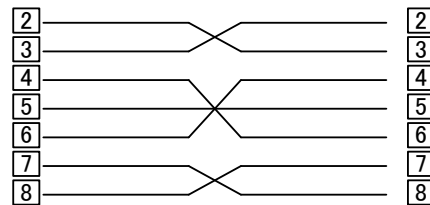
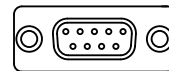
- 1 CD (DCD)
- 2 RD (RxD)
- 3 SD (TxD)
- 4 ER (DTR)
- 5 SG (GND)
- 6 DR (DSR)
- 7 RS (RTS)
- 8 CS (CTS)
- 9 CI (RI)

5-3. リバース変換器

Dsub9pin プラグ



Dsub9pin ソケット



6. アフターサービスについて

本製品の保証はご購入から1年間です。

保証期間内の故障に関しては保証書に記載された内容にて対応させていただきます。

ご不明な点は当社にお問い合わせください。

本体内にはバックアップ用電池が組み込まれています。日時が更新されない場合、電池が消耗しています。

電池は消耗品となり有償交換となります。交換はお客様にては行えませんが、当社にご依頼ください。

サイプレックス株式会社

TEL：0766-64-8818

メール：info@cyplex.co.jp

〒939-0121 富山県高岡市福岡町下老子298番地

改定履歴

改定番号	改定日	改定内容
Rev 1.201	2021/5/6	誤記訂正
Rev 1.200	2018/11/9	機能追加
Rev 1.100	2017/10/14	パソコンリンクソフト機能追加
Rev 1.41	2017/8/9	トリガー画面変更
Rev 1.40	2016/8/27	通信設定・トリガー画面変更
Rev 1.32	2016/5/20	ドライバー名変更
Rev 1.31	2015/12/4	機能更新